

市長とのかがやきライフトーク

と き：平成20年7月22日（火） 13:30～15:00

ところ：総合福祉会館3階 会議室

団 体：音訳奉仕グループつばくろ（14名）

テーマ：音訳をとおしての仲間づくり



【団体】

つばくろは今年で設立25年目を迎えました。現在、会員は女性ばかり21名です。活動の内容も広がり、時代とともに音訳も変化しつつあります。視覚障害者の方に書かれた文字を音に直すという意味で音訳という言葉を用いています。主な活動内容は4つあります。1つ目は、市の広報おおがき、市議会だよりなどの声の広報として、テープに録音して配布しており、利用者は20名です。2つ目は、身近な生活情報、一般誌、冊子等の情報提供をする声のマガジンづくりです。3つ目は、訪問朗読奉仕です。ケアサポート、デイサービス等へ、本の朗読や紙芝居など地域での活動の幅も広げております。4つ目は中部盲導犬協会に加入し、盲導犬育成のために寄付を行う盲導犬育成支援活動です。以上のように地道な活動を続けております。音訳は点訳や手話などと違い、ほとんど知られておらず地味な活動ですが、より多くの人に利用していただけるよう、今後もPRに力を入れていきたいと思っております。悩みとしては、音訳者が少ないため、音訳者の確保と後継者育成が今後の課題です。

また、視覚障害者のための録音はカセットテープからデジタルの時代へと移行しつつあります。昨年からはそのための学習会に参加しております。

【団体】

音訳の講習を受けて、お誘いを受けたので入会しました。主人が単身赴任をし、1日中誰とも話さないという日がたくさんありましたので、仲間づくりのためにも参加させてもらいました。また、参加させてもらうことが人のためにもなると同時に、自分磨きのために始めました。

【団体】

大垣は主人のふるさとで見知らぬ土地でしたので、地域のつながりがあまりなく、社会とのつながりを持ちたいと思っていたところ、広報で音訳ボランティアの募集があることを知り、応募させていただきました。

【小川市長】

意外と大垣市外から来られて、頑張っておられる方が多いのですね。外から来られて、ここでネットワークを広げていらっしゃるのですね。

【団体】

入会するとすぐ音訳ができるかというとそうではなく、社協の音訳講習会を半年（約30回）ほど受講してから音訳できるようになります。アナウンス読みで音訳ルールに従って音訳しますので、ここにいる全員が音訳講習会の卒業生ばかりです。資格ではありませんが基礎から学んでいます。

そういう道を踏まないと基本がわからないので、社協さんの講習会をこれからもやっていただかないと音訳者の育成ができないのです。講習会を受けても活動に参加していただける方が少ないのも悩みです。

ほとんどの方が音訳という活動を知られていないというのが現状です。手話や点訳とはまた違うものです。

【小川市長】

半年で30回も講習を受けられるのですか。ルールが厳しいですね。

音訳がいい方と点訳がいい方があるのですか？

【団体】

そうですね。自分に適したものでやっています。広報の点訳は抜粋して編集し

てみえますが、音訳は12ページ全てを行ってあります。それをまたテープにふきこみ、ダビングしてお渡ししています。広報ですので1年を通して休むことができません。義務感・使命感でやっています。

【小川市長】

ページ数が増えたので大変ですね。どのくらい日にちがかかるのですか？

【団体】

4日から5日です。4日かけてつくり、ダビングして20名の方に配っています。最初の頃、広報の1マス読むのが精一杯だったのですが、ようやく1ページ読めるようになってきました。目の見える方のために広報が編集されているので、音訳時にどう読めばいいのか考えることが多いです。私たちは一目で見てわかって、テープを聞いただけでわかるのか不安に思うことがあります。

名前の読み方を間違えると大変なので、わからないものは広報係に聞いて必ず確認していますし、一番気をつけているところです。また、同音異義語は漢字を見たらわかるものも、聞いただけではわからないでしょうから、聞いただけで伝わっているのかどうか心配です。今まで当たり前だと思っていたアクセントも、アナウンス読みすると全く違ってしまいます。仲間に指摘されないと気付いてないことがありますのでアクセントにも気を配るようにしています。障害者の方に実際の感想を聞いたことがないので、ご指摘等あれば聞いてみたいと思います。

【小川市長】

目が見える人でも地名・人名は困ることがありますからね。やはり、直接聞かないとわからないですよ。

【団体】

春日井市で行われたNHKの全国巡回朗読セミナーというものに参加しました。音訳とは違って朗読の講習です。私たちは3施設で朗読を行っておりますので、少しでも上達するために参加しております。

【小川市長】

朗読と音訳は違うものなのですか？

【団体】

私も経験しましたが全く違います。私が社協で講習会を受けたのは、朗読と間違えたのがきっかけでした。そこで初めて音訳というものを知りました。

NHKの講習はNHKのOBの方が朗読の仕方を教えてくれます。朗読は感情移入をしなければいけませんし、音訳は淡々とアナウンス読みします。

【団体】

施設訪問朗読についてですが、デイサービスなどの介護施設や医師から依頼があり、第1水曜日に2カ所、第3水曜日に1カ所を5、6人で訪問しています。活舌の訓練や発声練習をして、絵本や紙芝居を読んでいます。25名前後の方が、月1回の活動を大変楽しみにしてくれています。

【小川市長】

脳の活性化、若返りにもいいですね。

【団体】

私はこのボランティアに入って25年くらいになりますが、毎月1回、声のマガジンづくりをしています。この活動は、平成14年5月頃から50本ほど作っております。実はその前から自宅でやっておりました。

朗読には文芸朗読と伝達朗読の2つがあります。一般的に使われているのは伝達朗読ですが、声のマガジンはみんなにやわらかい雰囲気でも聞いていただけるように、やわらかい感じで、入っていきやすい内容というものを心がけています。社会で問題になっている話題を分かりやすく、また楽しんでいただける音訳をしています。視覚障害者の方から大変好評を得ています。

【団体】

社協での講習の受けられる人は多いけど、入会者が少ない。どうしたらみなさんに興味を持っていただいて参加してもらえるのかを考えてみました。私が感じたのは、講習が大変難しいので、難しいから続けられないという先入観があるのかもしれない。実際に私もそう感じました。でも基礎をしっかりと教えていただかないといけないので、厳しく教えていただけるのは今となってはありがたいと思っていますが、続ける人が少なくなってしまうのかもしれない。

【小川市長】

なかなか難しいですね。ボランティアで気軽にできるものかと思っていましたが、そこまでトレーニングをつまないといけないとは思っていませんでした。

【団体】

病気等で視覚障害になられた方は点字を覚えるのは大変ですし、また活字離れということもありますので、音訳希望者が増えないかなと思っています。ただ、そうするとダビングが大変になります。今はその機械が製造中止になってしまいました。2時間テープに録音していますが、編集しておりますので、実際はもっと長く録音しているのです。その編集にも労力を費やしています。デジタル化でどんどん多くの方に配れるようなシステムになったら私たちもやりがいがありますし、もっと市民の方にいろんなことが広がる可能性があると思います。合併して、音訳利用者が増えると思いましたが2本増えただけでした。

【小川市長】

せっかくみなさんがやられた立派なものなのに利用されないのはもったいないですね。視覚障害者の団体の集まりでPRできればいいでしょうね。

【団体】

視覚障害者の方との集まりはありますが、それに参加している方は団体に所属している方だけなので、所属していない方にももっと広く知ってもらいたいと思います。限られた方たちだけなので、他の方たちのご意見もいただきたいのです。また、市役所の社会福祉課の窓口で、身障手帳を発行するときにPRしてもらっています。市政と市民とのつながりが広がっていく可能性が大だと思います。

【小川市長】

一番確実に伝わるのは、社会福祉課で身障手帳を渡すときに必ず接点があるところですね。

【団体】

話題が変わりますが、20歳になる娘もおりまして、年金を払う年齢ですが、友達で払ってない子がいると聞きました。学生の間は免除申請というものがある

のですね。

また、さわやかみまもり Eye にはどういう方が登録されているのでしょうか？
中学でも保護者がさわやかみまもり Eye に登録して、地域の人と一緒に登下校時に見回りをやろうという話もでてきています。

【小川市長】

どういう方が登録しているかが心配ということですね。あまり人数が増えすぎるとかえって問題になることもありますしね。現在は3,000人の方にやってもらっています。これは大変ありがたいことなのですがね。さわやかみまもり Eye の最初の頃は、散歩やウォーキンググループの人たちが、歩くのと同時に、子どもたちの登下校の見回りや、環境面でポイ捨てのパトロールも一緒にやらせていただきますということが多かったようです。それから自治会の方や、それぞれの地域の方々で行うようにもなってきました。朝はみんなの時間が一緒なので比較的問題はありませんが、帰りは時間がバラバラなので高齢者の方がやられるケースが多いです。

年金の話ですが、不信感があって支払わないという方もみえますが、高齢になられたときに年金の受給資格がなく後悔するということも考えられますので、支払ってもらったほうが将来助かると思います。

【団体】

音訳のことですけど、ダビングの機械が製造中止になっていますので、今のものが使えなくなったらどうしたらいいのか心配です。1回で3本しかダビングできないので、毎月5回やらないといけないのです。ダビングの機械が増えれば1回でできるのですが。20本と言っておりますけど、テープは第1巻と第2巻がありますので、40本やることになります。

市のほうでダビングの機械を探していただけないでしょうか？

【小川市長】

デジタル化が進み製造中止になっていると思われるので、探すのも難しいでしょうね。デジタル化に対応していったほうが早いのではないのでしょうか。

【団体】

大垣市に住んで20年近くなりますが、市制90周年記念事業でいろいろな数々のイベントが計画されています。他のまちに比べて、お祭りやイベントが多いので驚いています。また、大型のスーパーや施設が大変増えています。若い人たちが住みたいという思いを抱くような魅力あるまちというのは、イベントやスーパーが多いまちではないと思います。文化的施設、安全な公園があるとか、子育てに関するケアが充実していることが大事だと思います。大阪府が破綻寸前で、橋本知事がイベントをなくすということを出しましたよね。それと同じように、イベントにかかるお金があるのなら、住みやすいまちづくりのために役立てて欲しいと思います。小さい子どもを遊ばせようとする芝生のある畜産センターに行ってしまう。大垣城公園の芝では子どもが入ることができません。安心して芝生で遊べるような大きな公園を建設して欲しいと思います。ガソリンの高騰もありますので、駅の周辺に公園や文化的施設があればいいと思います。

【小川市長】

みなさんそう言われますが、やはり車での移動が便利ですからね。ワンコインバスを走らせても、実際は利用者が少なかったりしてしまいます。町の中も活性化したいけれども、いざとなるとみなさん郊外の大型スーパーへ行ってしまう。これは全国的な現象ともいえるでしょう。大垣は紡績工場が多かったので、どうしても町の中に大きい工場の跡地ができてしまい、その跡地がスーパーになるという結果になってしまいますね。

また、子育て日本一のまちづくりということで、子育てに力を入れています。中学校卒業するまで医療費入院は無料、小学校卒業するまで通院外来無料です。保育園の保育料も毎年3～4%引き下げています。3人目以降は10万円お渡ししています。留守家庭児童教室の利用が3年生までだったのを4年生までにしました。各地区センターで子育てサロンを開いています。町の中にも子どもさんを一時的に預ける施設もつくっています。

【団体】

他の県に行くと、大垣は住みやすいことに気付きますけどね。

中心市街地に市営住宅を建ててみてはいかがでしょうか？

【小川市長】

郊外に建てなくても中心部に建てるという考えはありますね。そうすると中心部に住む人が増え、利用者も増えるでしょうからね。

私自身、認識不足のところがありまして、音訳というものがこんなにまで大変な作業で、そしてもっと利用されるといいなとつくづく感じました。また、このような活動が広がっていけばいいなとも感じさせていただきました。最後にいろいろな要望等も聞かせていただきましたが市政のほうに反映させていただこうと思います。